



平成 30 年 5 月 1 日

各 位

会社名 株式会社 東京 衡 機
代表者名 代表取締役会長兼社長 石川 隆一
(コード番号 7719 東証第2部)
問合せ先 常務執行役員管理担当 猪野 久仁朗
(TEL. 03-5207-6760)

特別損失の発生ならびに業績予想と実績値の差異に関するお知らせ

平成 30 年 2 月期第 4 四半期連結会計期間において、下記のとおり特別損失を計上いたしましたのでお知らせいたします。また、平成 30 年 1 月 12 日に公表いたしました平成 30 年 2 月期通期連結業績予想と本日公表の実績値に差異が生じたので、併せてお知らせいたします。

記

1. 特別損失の発生およびその理由

中国連結子会社である無錫三和塑料製品有限公司は、昨年発覚した元役職員による不正問題を受けて、事業基盤再構築に向けて業務改善を進めてまいりましたが、受注・売上の安定的な改善には未だ相当の時間を要する状況であり、同社単独の平成 30 年 2 月期連結会計年度における営業損失額は 394 百万円となりました。この結果、同社における大幅な営業赤字の計上により、平成 30 年 3 月 2 日付「中国子会社の本社工場の収用および移転に関するお知らせ」にてお知らせした同社の本社工場の収用に伴う収用補償金により回収できると見込まれるものを除くすべての固定資産およびのれんについて、以下のとおり、平成 30 年 2 月期第 4 四半期連結会計期間に特別損失として減損損失を計上することとなりました。また、これと併せて、同四半期連結会計期間において過年度決算訂正関連費用および固定資産除売却損を特別損失として計上いたしました。

また、これを受けて、当社単体において、無錫三和塑料製品有限公司に係る関係会社株式評価損を特別損失として計上いたしました。なお、当該特別損失は連結では調整により消去されております。

(連結) 減損損失 (固定資産)	141 百万円
(連結) 減損損失 (のれん)	54 百万円
(連結) 過年度決算訂正関連費用	6 百万円
(連結) 固定資産除売却損	5 百万円
(個別) 過年度決算訂正関連費用	6 百万円
(個別) 関係会社株式評価損	876 百万円

2. 業績予想と実績値の差異

(1) 平成 30 年 2 月期連結業績予想と実績値の差異 (平成 29 年 3 月 1 日～平成 30 年 2 月 28 日)

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	5,050	△130	△150	0	円 銭 0
実績値 (B)	4,527	△306	△343	△404	△5 67
増減額 (B-A)	△523	△176	△193	△404	—
増減率	△10.3	—	—	—	—
(ご参考) 前年同期実績 (平成 29 年 2 月期)	4,988	13	5	△49	円 銭 △0 70

(2) 差異の理由

平成 30 年 2 月期通期連結業績予想においては、下半期で試験機事業の大幅な売上高の伸長を計画しておりましたが、一部の大型案件の売上の翌期へのずれ込みにより計画を下回ることとなり、海外事業でも中国連結子会社である無錫三和塑料製品有限公司の業績回復が計画よりも遅れていることから、グループ全体で売上高、利益ともに前回予想を下回る結果となりました。また、昨年発覚した中国子会社の無錫三和塑料製品有限公司における元役職員の不正問題に伴い、会計的な影響額の算出、原因の究明、再発防止策の立案等を行うための調査委員会の設置、各種調査の実施、過年度決算訂正対応等に関して発生した費用を特別損失として計上しておりますが、平成 30 年 2 月期第 4 四半期連結会計期間における計上額は 6 百万円 (同連結会計年度における計上額は 108 百万円) となりました。また、同社は昨年の不正問題以降、事業基盤再構築に向けて業務改善を進めてまいりましたが、上記 1. 記載のとおり受注・売上の安定的な改善には未だ相当の時間を要する見通しで、同社単独の平成 30 年 2 月期連結会計年度における営業損失額は 394 百万円となり、同社に係る固定資産の減損損失、のれんの減損損失 195 百万円を特別損失として計上することとなりました。

その結果、親会社株主に帰属する当期純利益につきましても前回予想を大幅に下回り、平成 30 年 2 月期通期連結業績において 404 百万円の損失を計上することとなりました。

以上